

コロナ禍に推進されたテレワーク アフターコロナの新しい働き方に向け、認識された課題を解消 生産性を高める自社開発の働き方改革支援製品について

サイバーセキュリティカンパニーの株式会社フーバーブレイン(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:奥水 英行)は、自社開発の働き方改革支援製品「Eye“247” Work Smart(以下、ワークスマート)」で、アフターコロナの新しい働き方と生産性向上の実現に貢献します。



■新型コロナ対策として推進されたテレワーク

国内外で感染が拡大した新型コロナウイルス。感染防止のため、世界各国で、外出の規制・自粛対応や企業に対する在宅勤務の指示・推奨がなされました。国内においても、緊急事態宣言が発せられ、接触8割減を目標に、外出自粛・出勤者7割減が国民・企業に要請されました。

出勤者7割減に向けて、多くの企業で在宅勤務などのテレワークが推進され、かねてから導入していた大企業から、導入検

討も行っていなかった中小企業にいたるまで、テレワークの運用拡大と緊急導入が行われました。

多くの企業が、テレワークを推進したことで、テレワークにおけるメリット・デメリットが具体的に認識される機会ともなりました。

■「通勤時間の削減」だけで、「生産性が上がる」か？

すでにテレワークを導入していた企業も、緊急で導入した企業も、その多くで感じられたメリットが、「通勤時間が無くなった」ことでしょう。朝の短い時間で行われていた所用が、余裕をもって行えるようになった。外出に向けた準備が不要になった。通勤という物理的移動がなくなった結果、費やす時間や行き帰りの肉体的疲労もなくなった。など、誰もが実感したメリットとなりました。

通勤に使われていた、これだけの時間が「空く」ということは、朝夕の時間的余裕ができるだけでなく、長期的にみた総累計時間においても、通勤に消費されていた時間を他に使えるようになること自体が、テレワークによる大きなメリットであることは、間違いありません。

しかし、「家にいる時間」が長くなることで、家で「やるべきこと」が多々あります。単身者でも家事が発生し、子育て世代では育児が必要となり、二世帯では介護の必要がある方もいます。オフィスという「業務にだけ集中できる環境」だったからこそ、「生産性が維持されていた」という事実も、テレワーク導入で再認識されたことでしょう。

また一方で、通勤時間に使っていた時間帯が仕事に使えるようになったことで、業務を早く始める例も聞かれます。その場合、早く就業した分、出勤時と同じ業務パフォーマンスの上、終業時間を早められれば、通勤時間の削減によるメリットを享受できていることとなります。しかし、早く就業しても、終業時間が変わらない、終業時間後も働くよう

な場合は、明らかに過剰業務状態と言えるでしょう。これは、時間の有効利用や生産性が上がったと言える状態なのでしょうか。

■当社が考える「本当の働き方が見える」=PC業務の「見える化」で、従業員の具体的な働き方がわかる

当社は、業務を見える化することで、テレワークで発生する課題を解消し、その有効性を高められ、生産性を向上できると考えています。

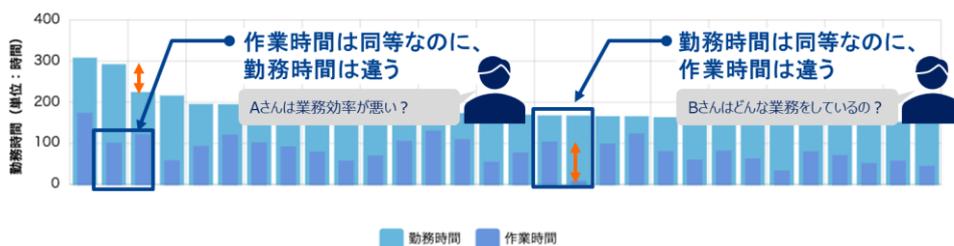
テレワークで指摘される課題の根本は、管理者と従業員が物理的に離れているため、従業員の働きぶりが見えない。業務の進捗具合がわからない。など、管理が難しいという意見が聞かれます。ですが、そもそもオフィスワークで「見えていた」のは、本当の意味で働き方が「見えていた」のでしょうか。

多くのオフィスワークはPC業務が主体になると思います。オフィスで見えているのは、従業員の物理的な動きであって、わかりやすい成果物がない限り、肝心のPC業務内容がわからなければ、本当の意味で働き方が「見えている」ことになるでしょう。

当社は、PC業務が見える化されてこそ、本当の働き方が見えてくると考えます。

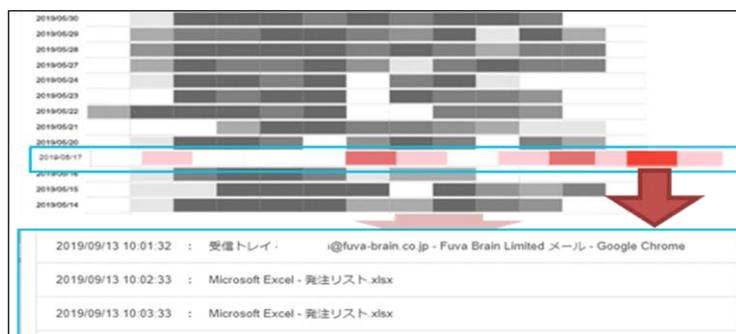
従業員が、いつ、どのような業務を行っているのか。どの業務に時間がかかっているのか。どの時間帯に業務を離れる必要があるのか。など、PC業務が見えることで、従業員の具体的な働き方がわかります。また、見える化した各従業員間の働き方を比較することで、従業員の苦手業務や、負担の集中度合いなど、指導や改善すべき点の把握が可能になります。

さらに、優秀な人材の働き方を分析し、ベストプラクティスとして社内共有することで、社内全体のパフォーマンス＝生産性の向上が図れます。



働き方の比較で、従業員に対するマネジメントの質も上げられる。

テレワークという物理的に離れた環境においても、PC業務内容から、働きぶりや、進捗状況の確認が行えます。さらに、管理者が見える化された従業員の働き方を把握した上で、今後の業務指示や、指導、評価を行うことで、相互理解のとれた高いコミュニケーションも可能になります。



働き方の見える化で、抱く必要のない「不安」をなくす。

働き方が見える、見られることで、テレワークにおける管理者・従業員双方に発生しうる「ムダ」もなくせます。お互いの姿が見えないことで、管理者は「ちゃんと業務が行われているのか?」、従業員は「さぼっていると疑われていないか?」と、お互いが疑心暗鬼のような不安を抱きかねません。働き方が見える化されることで、このような「ムダ」な不安をなくし、それぞれの業務に集中できる快適な環境を実現できます。

■アフターコロナの新しい働き方と生産性向上に向けて

新型コロナウイルスの収束が今なお見通せない状態ですが、多くの企業がアフターコロナを見据えた取り組みに

着手しています。テレワークを恒常化する企業も国内外で出てきました。また、テレワークが有効に行えるよう社内制度の変更に動く企業もあるでしょう。このような流れの中、さらにアフターコロナでは、在宅だけでなく、働きたい場所で働きたい時に働くという「新しい働き方」が定着していく未来もあるでしょう。当社はアフターコロナの新しい働き方と生産性向上の実現を、働き方改革支援製品「ワークスマート」で支援します。

【「ワークスマート」の主な機能】

①勤怠状況分析

・勤務時間・作業時間・作業内容・使用アプリケーション・ファイル操作ログなど

②IT 資産管理

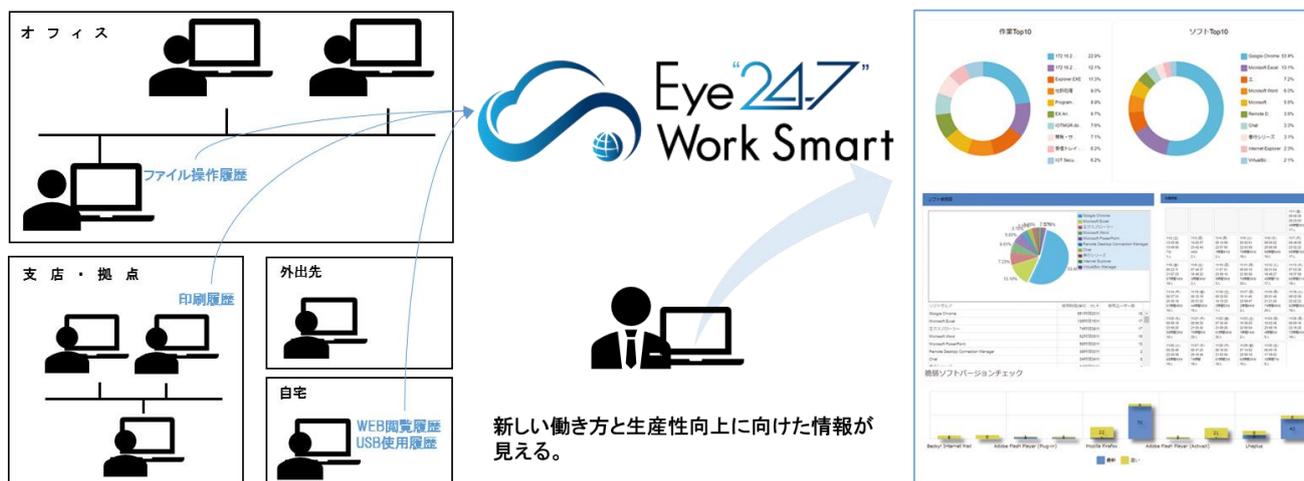
・クライアント情報・ソフトウェア情報など

③情報漏えい対策

・USBメモリ使用監視・USBメモリ使用制御・印刷操作監視など

④セキュリティ対策

・ソフトウェアバージョンチェック・ウイルス対策ソフト情報など



各従業員の PC 作業情報が「ワークスマート」で収集され、業務内容や勤怠状況の把握が可能になります。IT 資産情報や、情報漏えい対策・セキュリティ対策に必要な情報の確認または操作制御も可能です。クラウド利用で、管理者も従業員も時間や場所を選ばず利用でき、「新しい働き方」と「生産性向上」の実現を支援します。

■株式会社フーバーブレインについて

当社は、サイバーセキュリティソリューションとして、情報通信技術 (ICT) を悪用した外部からの不正プログラム (マルウェア) 攻撃に対する防御の提供と、企業の内部関係者によるデータベースへの不正アクセス、情報漏えい等を防止する対策に加え、業務状況の可視化による業務効率改善および働き方分析の支援を行っています。当社は、セキュアなプラットフォームで生産性とクオリティオブライフ向上を支援し、これからの第 4 次産業革命に向けた成長の加速を実現します。

【会社概要】

- 会社名： 株式会社フーバーブレイン
- 代表： 代表取締役社長 奥水 英行
- 本社： 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 4-1 ニューオータニガーデンコート 22F
TEL 03-5210-3061(代表)
- WEB： <https://www.fuva-brain.co.jp/>
- 設立： 2001 年 5 月 8 日
- 資本金： 283,880,000 円(2020 年 3 月 31 日現在)(東京証券取引所市場マザーズ:証券コード 3927)
- 事業内容： ●サイバーセキュリティソリューションの提供
●テレワーク環境の構築
●生産性およびクオリティオブライフの向上支援